

(オ) 5年生の取組

子どもたちは、西日本豪雨を経験し、断水の被害に遭遇した。発生当初は給食も作れず、午前中までで帰ったり、簡易給食を食べて午後の授業に臨んだりといった経験もしている。子どもたちは自然災害の恐ろしさを身近に感じており、興味関心も高い。そこで、5年生は「自然災害を防ぐ」の学習を通して、自然災害のメカニズムについて学習し、発生時に自分たちがどのように行動するべきかを考えた。本単元では、ジグソー法という学習法を参考に授業を行った。

○ エキスパート活動

台風・地震・土砂災害の3つのグループに分かれてエキスパート活動を行い、一人一人が発表できるよう準備する。まず、本やインターネット、地域特有の資料などの情報をたくさん集めた。その情報をもとに、それぞれの自然災害のメカニズムや、被害を防ぐための国や地域の取組などをまとめた。さらに、それらを踏まえて自分たちにできることを考えた。グループで協力し、写真や絵、グラフなどを効果的に用いてまとめた。調べたり、考えたりしたことを友達に分かりやすく発表をするために、様々な工夫を凝らして活動することができた。



〈エキスパート活動の様子〉

○ ジグソー活動

ジグソー活動では、エキスパート活動を行ったグループからそれぞれ集まり、ジグソーグループを作る。そこで、自分たちが学んだ自然災害について発表し合うことで、3つの自然災害全ての知識を得ることができる。発表の中には、その自然災害特有の対策もあれば、自分たちにできること、すべきことに共通点を見出していた児童もいた。自分たちにできることに関して、自然災害が発生する前と発生後に分けて考えていたグループがあった。発生前には、非常用持ち出し袋の準備や、避難場所や避難経路について家族と話し合いをしておくこと、発生後には命を守る行動をとることが大切であるという意見だった。発生後に落ち着いて正しい行動をするためにも、自然災害が起こる前に知識を深めたり、十分な備えをしたりする必要があると振り返っている児童が何人も見られた。



〈ジグソー活動での発表の様子〉

この学習法では全員がグループの代表として発表をするため、一人一人が責任感をもって活動できた。そのため、質問に答えたり、友達の発表をメモを取りながら真剣に聞いたりできた。これらの活動によって、発表後の意見交換や振り返りが活発となり、有意義なものとなった。

授業後の事後指導において、学習したことを通して自分たちが行ったことを聞くと、ほとんどの児童が家族と話し合いをしていたり、非常用持ち出し袋を準備していたりする児童が何人もいた。中には岩城地区のハザードマップを確認し、自分の家や学校の危険区域について調べたという児童もおり、充実した学習機会になったと考える。

(カ) 6年生の取組

6年生は、家庭や学校における防災に対する情報や知識を学ぶことを通して、防災意識を高めてきた。いっどこで起こるか分からない災害だからこそ、いざという時に一人一人が正しい判断を行い、まずは自分の命を守ることができること目指して、学習を進めてきた。

○ 道徳「土石流の中で救われた命」

本教材を通して、自然災害の脅威を感じると同時に避難に関する知識をもつことの大切さを感じていた。また、教材の中で多くの人の命を救おうとした警察官の様子から自分を支えてくれている人、守ってくれている人の存在に気付いた。西日本豪雨を経験している子どもたち。「学校周辺の池が土砂崩れにより、一瞬で姿を変えてしまったこと」「断水時には多くの人々が学校に水やウェットティッシュを持って来てくれたこと」「近所で井戸水の提供をしてくれたこと」「災害の恐ろしさを肌で感じたこと」「人々の優しさによって助けられたこと」を思い起こしていた。そして、このような災害時には、人々の支え合いや助け合いがあったことを改めて感じ、感謝の気持ちをもっていた。

○ 理科「火山の噴火や地震による土地の変化を調べよう」

地震による土地の変化や被害の様子を学び、災害に対する備えを考えた。地震が起きると道路や建物が壊れる被害の他にも、津波を引き起こすこともある。災害時に自分の住む地域で安全な場所や危険な場所はどこなのか、地域のハザードマップを見ながら考えていった。その中で、地震、津波、土砂災害など災害の種類によっても、避難する経路や場所も変わってくることに気づき、その時の状況をしっかりと見て判断し、正しい行動をする必要性を感じていた。

○ 国語「意見を出し合おう ～パネルディスカッション～」

「災害から身を守るために大切なこと」をテーマにパネルディスカッションを行った。西日本豪雨での経験や東日本大震災時の様子を表した資料をもとに、「災害時に身を守るための知識」「災害に備えた準備」「災害時に助け合える人と人とのつながり」が大切ではないかと考え、この3つの面から進めていくことにした。パネルディスカッションのための資料作りの際には、「自分の家にはどれくらいの水や食料を準備しているのか。」「家具を固定しているか。」「地震が起きたときに隠れる場所があるか。」や「家族と離れているときに災害が起こったら場合どうするか。」など、実際に非常持ち出し用袋の中身を見てみたり、家の中を観察して地震発生時に落ちてくる物や倒れてきそうな物はないか確認したりしている児童もいた。パネルディスカッション時には、友達と意見を交換していく中で、自分たちの生活の様子をより明確にイメージしながら、様々な場所（家の中、学校、道路など）で災害が起こった時の身の守り方を具体的に考えていた。また、友達の家での災害への備えを聞くことを通して、自分の家には足りていない物（水や食料の不足）や準備しておいた方がよいこと（いつでも手に取れる場所に懐中電灯を設置、予備の電池の用意）などに気づき、家族ともっと話し合っておきたいこと、準備しておきたいことを見付けていた。我が家の防災対策について、改めて問い直すきっかけになった。



〈パネルディスカッションの様子〉

(2) 連携部会の取組

ア 避難訓練

本校では、毎学期1回以上の避難訓練を実施している。
1学期（5月）には地震・津波対策の訓練を行った。「緊急地震速報」を流し、揺れが収まるまで教室等で身を守る体勢を取った後、一次避難として運動場へ移動した。その後、津波の発生を想定して学校裏の高台にある保健センターへと二次避難をさせた。この避難訓練は毎年5月のフリー参観日に実施しており、保護者にも参加を呼び掛けている。児童には事前に知らせていたので、落ち着いて行動でき、保健センターへの移動も5分程度で避難完了した。

また2学期には、9月の防災週間に今年度初めて「予告なしの避難訓練」を実施した。教職員には時間帯を知らせていたが、児童には全く知らせていないため、非常時の対応や行動がきちんとできているかを確認するためでもあった。昼休みで、しかも運動会の紅白リレーの練習をしている最中のため、運動場には多くの児童がいた。もちろん校舎内にも多くの児童が残っている。この状況で「緊急地震速報」を鳴らした。「ピロロ〜緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。」の放送とともに、運動場にいた児童の多くは電柱など物が倒れてこない中央部へ移動していた。運動場の中央部には教職員もいたため、その後、身を低く保って揺れが収まるのを待っていた。運動場で遊んでいた低学年児童も「だんごむし」のポーズをとって身を守ろうとするなど学習したことをよく覚えていた。

しかし、樹木の近くでうずくまったり国旗掲揚台近くの固定タイヤの中にもぐり込んだりする児童もいた。物が倒れてこない場所へ避難という認識が低学年児童には十分でないことが訓練を通してよく分かった。そこで、今後も様々な想定で継続して行うことにより、児童や教職員の防災意識の高揚を図っていきたいと考えている。

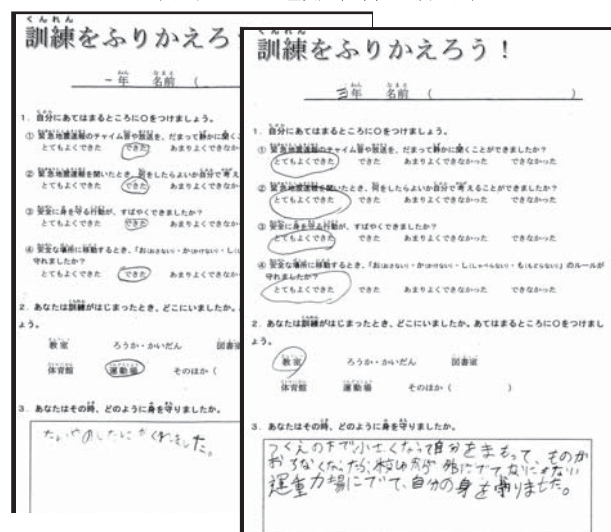
また、11月には教職員にも日時を知らせずに「予告なしの避難訓練」を実施した。地震などの災害は、いつ何時起こるか分からない。その規模も予測を遥かに超えるものであるかもしれない。様々な場合を想定しながら、現実に即したより実践的な避難訓練を継続して行ってい



〈5月避難訓練の様子〉



〈予告なし避難訓練の様子〉



〈ふりかえりカード〉

くことが、安全意識・防災意識の向上につながるものと考えている。

イ 防災カルテの作成

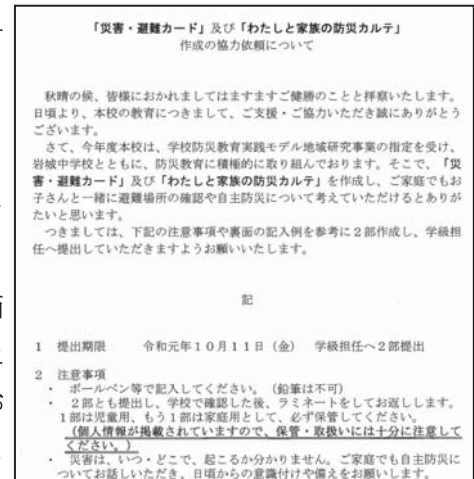
家族と一緒に自分たちの住む地区等の避難場所の確認や自主防災について考えるきっかけにしてもらうため、「防災カルテ」の作成に取り組んだ。家族と一緒に作成することで、児童が家族に教わるだけでなく、登下校時に見られる危険箇所を家族へ知らせることもできる。何よりも、災害が起きた時、どのように対応したらいいか、家族で情報を共有しておくことは極めて大切である。こうした防災意識を喚起することで、いざという時、行動に移すことができるものだと考える。現在、作成した2部のうち1部を家庭で保管し、1部を児童がカバン等に入れて持参している。

なお、防災カルテは作成することが最終的な目的ではない。今後は、校区の通学路の点検時や下校指導時に活用するとともに、変更等があれば更新していくとともに、必要に応じて定期的に見直していくことが重要であると考えている。防災カルテの効果的な利用法や活用方法について更に研修を深めていきたい。

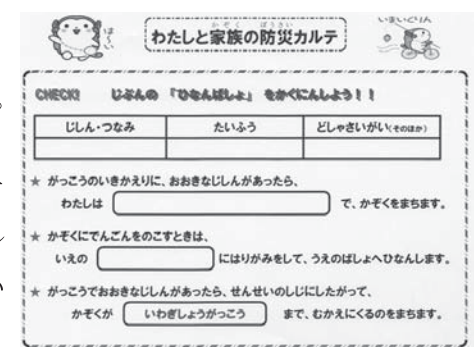
ウ 自作教材（簡易版HUG…岩城小バージョン）の作成

避難所運営ゲーム（HUG）のセットは市販もされている。しかし、市販品は大人向けとして作成されており、児童がそのまま使うことは難しい。そこで、児童も使いやすいように改良した小学生向けの岩城小学校バージョンを教職員で作成することにした。まず、避難所にやってくると思われる様々な立場の人々を、年齢・性別・家庭環境・身体状況等いくつかの観点で分類し、それを組み合わせて避難者リストを一覧表にまとめた。そして、でき上がった一覧表をもとに、ゲームで使用するためのカードを作成していった。その際、イベント情報のカードは作らず、避難してくる人物カードのみ作ること、できるだけ平易な言葉や漢字を使うこと、イラストを付けてどんな人物かイメージやすくすること、などを配慮した。また、地区名は岩城の地区名を充て、人物名は愛媛県や上島町、岩城、災害等と関連する名前にした。岩城には在住する外国人労働者も多いので、カードには外国人家族ももちろん取り入れた。

HUGに限らず、防災教育に役立つ様々なグッズを教職員の創意工夫で開発していくことや身の回りにあるものを災害時に役立てる方法を学ぶことなど、防災意識の高揚に役立つ研修を進めていきたいと考えている。



〈防災カルテ作成依頼文書〉



〈防災カルテ（低学年用）〉

避難所HUG カード 内容	岩城小バージョン
番号	名前 年齢 性別 住んでいる地域 家族の事情・大切なこと
1	いわざさん 27 男 赤石
	いわざさん 26 女 赤石
	いわざくん 2 男 赤石
2	いもがしさん 58 男 小瀬
	いもがしさん 58 女 小瀬
3	てんぼうだいちゃん 5 女 長江
	てんぼうだいくん 3 男 長江
4	さくらさん 78 女 東
	さくらさん 102 女 東
5	せきぜんさん 27 男 小瀬
	せきぜんさん 27 女 小瀬

〈HUGカード用人物リスト〉



〈HUGカード・岩城小バージョン〉